

令和6年6月11日

富士見市議会議長 田中栄志様

総務常任委員会委員長 佐野正幸

### 行政視察報告書

本委員会は、所管事務調査として先進地の視察を行いましたので、報告します。

#### 記

- 1 実施期間 令和6年5月16日（木）
- 2 視察地及び調査事項 埼玉県ふじみ野市  
「ふじみ野市防災備蓄品管理倉庫について」
- 3 出席委員 委員長 佐野正幸 副委員長 宮尾 玲  
委員 根岸 操 委員 伊勢田 幸正  
委員 関野 兼太郎 委員 篠田 剛
- 4 随員職員 議会事務局 主任 伊藤 沙耶子
- 5 同行職員 危機管理監 近藤 徹  
危機管理課長 深迫 国宏

（調査結果報告は、別紙とする）

## 別紙

### 1 「ふじみ野市防災備蓄品管理倉庫について」調査報告

#### <市の概要>

ふじみ野市は、平成17年10月1日に上福岡市と入間郡大井町が合併して誕生した。東は富士見市、西は川越市、南は三芳町、北は川越市に隣接している。

武蔵野台地の北部のほぼ平坦な地に位置し、地質は関東ローム層である。北部市境に沿って、江戸時代から昭和初期にかけて江戸とを結んで栄えた新河岸川舟運の水路・新河岸川が南北に流れている。都心から30キロメートルの首都圏に位置しながらも、新河岸川や雑木林など豊かな自然が残り、交通の利便性を活かした商品流通業や首都近郊農業などが盛んなまちとして発展している。

面積 14.64平方キロメートル

人口 114,460人（令和6年5月1日現在）

令和6年度当初予算 731.8億円

財力指数 0.758（令和5年度）

#### (1) 調査事項の概要・経過・特徴等について

本市では、災害対応体制の強化を図るため、中央防災センターを整備する計画が決まり、令和6年度の予算では当該用地を取得する予算が組まれた。そこで、本委員会として、他自治体の防災倉庫の先進事例を参考にすべく視察を行った。

ふじみ野市では、「合併により防災倉庫の役割が統一できていない。」・「市内に様々な防災倉庫が40か所以上点在し、管理が複雑化していた。」ことから、市内で受援に対応できる倉庫の確保策として、旧上福岡学校給食センター跡地に、ふじみ野市防災備蓄品管理倉庫を設置した。

#### <施設情報>

契約額 90,720,000円

竣工 平成31年3月

構造・階数 軽量鉄骨造・地上2階建

延床面積 400平方メートル（各階200平方メートル）

#### (2) 具体的対応策・取組状況について

##### ①備蓄体制

防災備蓄品管理倉庫の設置により、ふじみ野市では以下の各防災倉庫の備蓄品を用途ごとに管理し、初動期の対応と初動期以降に必要な備蓄品を管理・保管している。

倉庫	①分散型防災倉庫	②中型防災倉庫	③大型防災倉庫及び 地域内輸送拠点 *今回の視察施設
対象施設	各地域防災拠点 (市内20か所)	福祉避難所・帰宅困難者等	福祉避難所・帰宅困難者等
備蓄品	食品・トイレ・医療用品・ 衛生用品等	トイレ消耗品・ストーブ・ アルミ毛布等	毛布・テント・パーテーシ ョン・食器等
備考	初動期対応を想定した 防災備蓄品を保管		長期の避難において必要と なる物資の保管及びプッシ ュ型の物資の受入れを想定

#### ②倉庫内の特徴

大型トラックの駐車や物資の荷さばきのためのスペースが確保され、また、停電時に備えた非常用発電機、物資を運ぶためのエレベーターやシューター、ハンドフォークリフトや、かご台車なども整備している。

#### ③防災倉庫を使った訓練

イオンリテール株式会社による物資受援訓練や、陸上自衛隊による物資搬出訓練を行っている。

#### ④管理方法

防災備蓄品の管理は、各防災備蓄品の消費期限に沿ってあらかじめ定められた年数でローテーションを組み、システムで管理を行い、複数年に分けて購入を計画している。

	1年目		2年目		3年目		4年目		5年目		6年目
購入	パン缶 A	→	パン缶 B パン缶 A	→	パン缶 C パン缶 B パン缶 A	→	パン缶 D パン缶 C パン缶 B パン缶 A	→	パン缶 A パン缶 D パン缶 C パン缶 B	→	パン缶 B パン缶 A パン缶 D パン缶 C
利活用									パン缶 A		パン缶 B

#### ⑤利活用計画

防災備蓄品の消費期限を残した上でローテーションを行い、防災備蓄品ごとに利活用をしている。

〔食品系〕 例) パン缶・水：総合防災訓練時に参加者に配布

ミルク：乳幼児健診時に配布を想定し、保健センターに提供

〔衛生用品系〕 例) 生理用品：支援が必要な世帯への配布を想定し、福祉総合支援チームに提供

乳幼児用おむつ：在籍する乳幼児への使用を想定し、保育所に提供

〔医療用品系〕 例) 液体石鹸・手指消毒液等：在籍する児童を想定し、保育所に提供

〔その他物資〕 総合防災訓練等において使用

#### (3) 効果・課題・問題・反省点について

前述6 (2) ①備蓄体制の通り、市内の各防災倉庫の備蓄品を用途ごとに分けて整理し、パンや水など「初動期に必要な物資」は既存の倉庫へ、炊き出し用のかまどや暖房器具など「長期の避難において必要となる物資」は防災備蓄品管理倉庫に集約することで、効率的な運用と適正な管理が行えるようになった。

また、国や県、協定先などからの「物資の受入れ」を想定したスペースを確保し、スムーズに安定した物資の受入れと供給ができるようになった。

非常食の保存期限が5年だったものが7年に延びるなど、製造技術が上がっていることから、備蓄する非常食の見直しを今年度から行っていく。

また、これまでは卵のみだったアレルギー対応を、米粉パンも活用し、アレルギー対応をしていく。

#### (4) まとめ（指摘事項、本市における具体的活用方策、提案等）

本市において、中央防災センターを整備する計画が動き出した中、隣接するふじみ野市は、人口規模や災害が起こる状況・防災に向けた課題がほぼ同じである。

また、計画されている中央防災センターの建設規模は、ふじみ野市防災備蓄品管理倉庫と同程度となる予定であることから、とても参考になった。今後の中央防災センター建設の議論に生かしていく。

なお、本市で予定している中央防災センターは、ふじみ野市とは異なり、市役所が被災したときには中央防災センターに災害対策本部を設置できる作りとする必要があることから、この点については他の自治体の防災倉庫も研究していきたいと考える。

以上